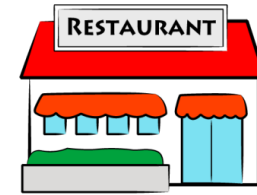




エコマーク「飲食店」



認定基準案 説明会



2017年7月19日(東京)・25日(大阪)
公益財団法人日本環境協会 エコマーク事務局



1. **エコマークについて**
2. 「飲食店」認定基準案の概要
3. 申込手続きについて
4. エコマークのメリットと広報ツール



エコマークって何？

- 環境のことを考えた製品やサービスに付けられる、**環境ラベル**のこと。



国内唯一のタイプ I
ISO14024 環境ラベル

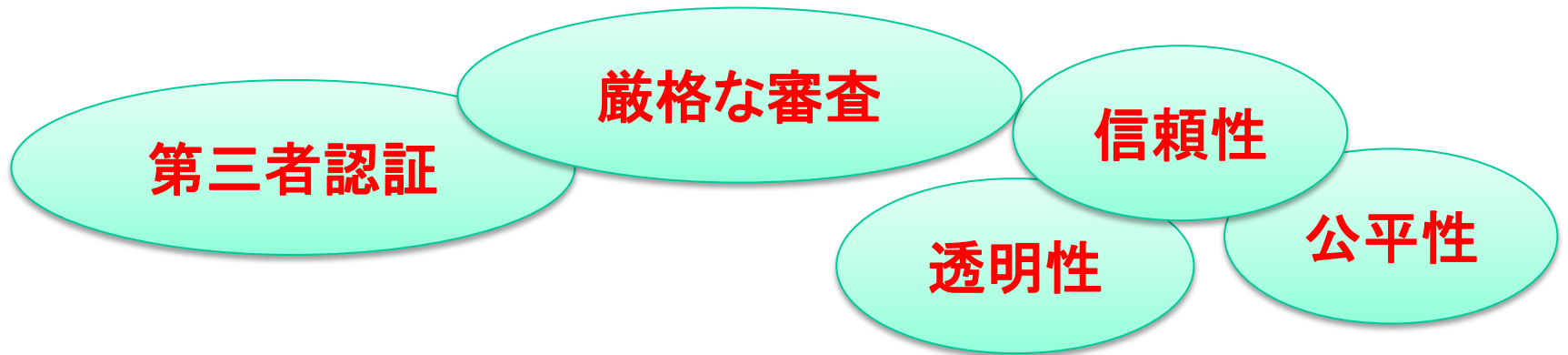
- 環境にやさしい商品を選ぶときの**目印**になる。





誰がつけているの？

- 公益財団法人日本環境協会エコマーク事務局が、**国際的なISO規格**に基づいて運営している。



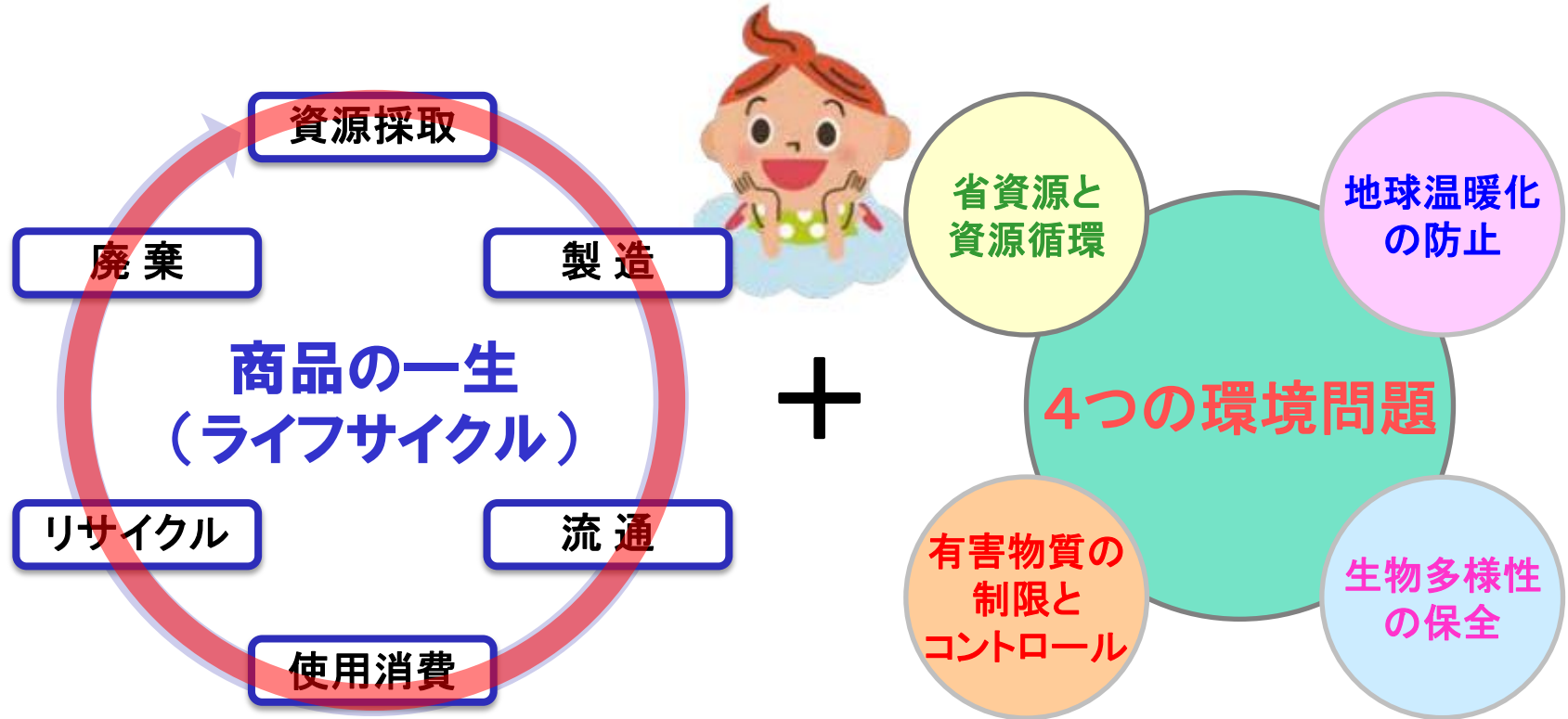
- 商品の種類ごとに**厳しい基準**を設けている。
- 環境の専門家が集まって審査し、**合格したもの**だけにつけることができる。





どんなところが環境にいいの？

材料を選ぶことから、最終的に廃棄されるまでの**商品の一生**を、**4つの環境問題**から考えて基準を作り、認証している。



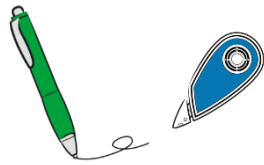
一部分の評価

例えば、使う段階で省エネ性能がどんなに優れていても、製造する過程でエネルギーをたくさん使っていたら環境にやさしいとは言いきれない。



エコマークの歴史

- 制度開始＝1989年（平成元年）
- **5,387商品**を認定（1,532社）（2017年6月末現在）



1989年



2017年

日用品



日用品

建築・土木

文具

電子機器

繊維

家具

⋮

⋮

さまざまな分野に広がり、組織購入者の目安にもなっている

身の回りの環境に対する意識を変えるような商品からスタート

現在、**63**の
商品類型（分野）



エコマーク認定製品例(1)



筆記具



ノート



玩具(プラスチック製品)



食器



のり



詰め替え容器



消火器



衣服



卓上用まほうびん



ベビーカー



節水型機器



ベッド



エコマーク認定製品例(2)



複写機



プリンタ



テレビ



パソコン



プロジェクタ



時計



エコマーク認定製品例(3)



ホテル



カーシェアリング

【新】飲食店



小売店舗



商品分野ごとに認定基準を策定

- 材料や作り方、使い方はそれぞれ違うため、エコマークの基準は、**商品の種類ごと**に作られている。

日用品・家庭用品/ファッション・小物	家電/家具・インテリア	業務用資材・DIY/容器包装/その他
かばん・スーツケース	家庭用繊維製品	印刷インキ
衣服	家具	工業用繊維製品
衛生用紙	テレビ	印刷用紙
生ごみ処理機	BD/DVDレコーダー・プレーヤー	生分解性潤滑油
日用品	電球形LEDランプ	包装用紙
廃食用油等再生せっけん		紙製の包装用材
靴・履物	土木建築資材・設備	間伐材、再・未利用木材などを使用した製品
革製衣料品・手袋・ベルト	タイル・ブロック	プラスチック製品
まほうびん	土木製品	リターナブル容器・包装資材
楽器	建築製品(内装工事関係用資材)	ガラス製品
乳幼児用品	建築製品(外装・外構工事関係用資材)	塗料
	建築製品(材料系の資材)	太陽電池を使用した製品
OA機器・サプライ/文具・事務用品	建築製品(設備)	リユース製品
パーソナルコンピュータ	木材などを使用したボード	詰め替え容器・省資源型の容器
複写機・プリンタなどの画像機器	塗料	生分解性プラスチック製品
インクカートリッジ	消火器	サービス
トナーカートリッジ	浄化槽	損害保険
プロジェクタ	太陽熱利用システム	小売店舗
デジタル印刷機	便器などの衛生器具	カーシェアリング
情報用紙	給水栓	ホテル・旅館
文具・事務用品	節水器具	プラスチック製容器包装のリサイクルによるアンモニア製造プロセス
紙製の印刷物		飲食店



1. エコマークについて
2. 「飲食店」認定基準案の概要
3. 申込手続きについて
4. エコマークのメリットと広報ツール



商品類型設定の背景

- パリ協定の採択を受け、日本では**民生部門**における温室効果ガスの大幅な削減が求められている。
- 温室効果ガス排出の要因の一つとして**食品ロス**が問題視されている。
- 飲食店はサービス重視の傾向が強く、環境配慮の面で**改善の余地が大きい**と言われている。



「飲食店」に着目



基準策定の目的

- 利用する機会が多い飲食店からの情報発信は、消費者関心の高い「食」をキーワードに気づきを与えることが可能
- 飲食店は全国62万店。環境意識を広範囲に浸透させる拠点として最適



「環境に配慮した飲食店」を普及させ、
グリーン市場の形成に寄与する。



適用範囲(申込の対象)

■ 飲食店全般(社員食堂、学生食堂も含む)

大分類	中分類	小分類	細分類
M-宿泊業、飲食サービス業	76-飲食店	761-食堂、レストラン(専門料理店を除く)	7611-食堂、レストラン(専門料理店を除く)
		762-専門料理店	7621-日本料理店
			7622-料亭
			7623-中華料理店
			7624-ラーメン店
			7625-焼肉店
		7629-その他の専門料理店	
		763-そば・うどん店	7631-そば・うどん店
		764-すし店	7641-すし店
765-酒場、ビヤホール	7651-酒場、ビヤホール		
766-バー、キャバレー、ナイトクラブ	7661-バー、キャバレー、ナイトクラブ		
767-喫茶店	767-喫茶店		
769-その他の飲食店	7691-ハンバーガー店		
	7692-お好み焼・焼きそば・たこ焼店		
	7699-他に分類されない飲食店		

出典：日本標準産業分類(総務省)



基準の構成と認定要件

【必須項目】: 必ず満たさなければいけない項目

【選択項目】: 店舗の取り組み状況に応じて選択する項目

No.	評価カテゴリー	必須項目	選択項目 (最大ポイント)
1	環境に配慮した食材と仕入れ	—	11 ポイント
2	食品ロス削減とリサイクル	1 ポイント	12 ポイント
3	店舗の省エネと節水	1 ポイント	12 ポイント
4	店舗備品・設備の環境配慮	—	10 ポイント
5	環境を意識した店舗運営	1 ポイント	9 ポイント
6	環境コミュニケーション	1 ポイント	9 ポイント
合計		4 ポイント	63 ポイント
認定要件		25 ポイント以上	

(必須4ポイント+選択21ポイント以上)



1. 環境に配慮した食材と仕入れ



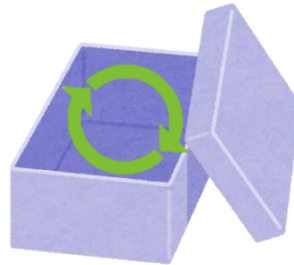
⇒認定基準書3ページ目

【選択項目】

- 地産地消、有機農産物、規格外食材などを使用しているかどうか。



- 効率的な発注単位、時間指定の見直しなど
- 通い箱の利用、過剰梱包の見直し要請など





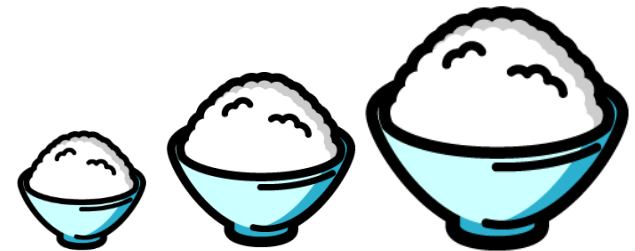
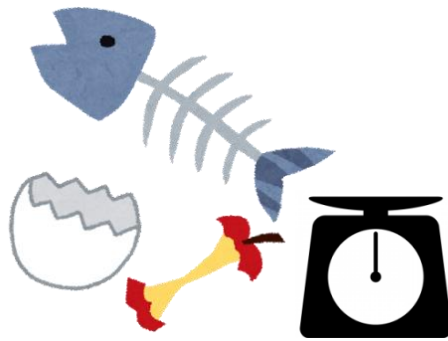
2. 食品ロス削減とリサイクル



⇒認定基準書4ページ目

【必須項目】

- 食品廃棄物の発生量を把握していること。



【選択項目】

- 食べ残しが減る取り組み（小盛りメニュー、アレルギー表示など）
- 発生抑制の目標値の設定
- 飼料化・肥料化などの食品リサイクル など



3. 店舗の省エネと節水



⇒認定基準書5ページ目

【必須項目】

- エネルギー使用量を把握していること。



【選択項目】

- 日常的な省エネ・節水対策、設備点検
- LED、省エネ型機器などの導入
- 使用量削減の目標値の設定 など





4. 店舗備品・設備の環境配慮



⇒認定基準書6ページ目

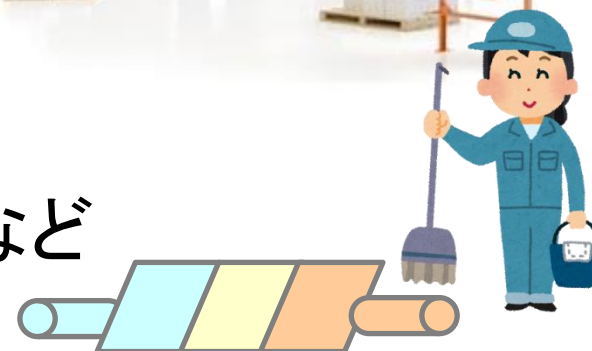
【選択項目】

- リターナブル箸、間伐材の割り箸・お皿など
- 再生PET繊維のユニフォーム
- 洗剤などの詰め替え容器



- 環境にやさしい建築材料

- グリーストラップの清掃点検 など





5. 環境を意識した店舗運営



⇒認定基準書7ページ目

【必須項目】

■環境法規を順守していること。

食品リサイクル法

フロン排出抑制法

容器包装リサイクル法

省エネ法

・・・etc

【選択項目】

■環境方針の決定、スタッフ教育訓練

■エコマーク商品などの優先購入

■エコアクション21やISO14001などの認証取得





6. 環境コミュニケーション



⇒認定基準書8ページ目

【必須項目】

- エコマークの店頭表示、情報発信していること。

ポスターへの表示や
認定証等の掲示



【選択項目】

- マイ箸、マイボトルの推奨
- 地域の美化清掃、植林活動への参加
- 食育セミナーの開催 など





「その他」の項目について

- 業種・業態、あるいは規模等により環境配慮の取り組み内容、レベルは様々
- 認定基準書の中で各社が実施しているすべての取り組みを網羅することはできない。



「その他」項目として、評価カテゴリー毎に**自由記述欄**を3つずつ設けた(記載以外の取組も評価できる)。

※認定された「その他」の取組は他事業者への参考事例として公表する



各項目共通の考え方

- 基準への適合は、原則「実施の有無」で判断
(**取り組みの程度は問わない**)
- 原則「**実績で評価**」するが、新規店舗などは
計画でも可



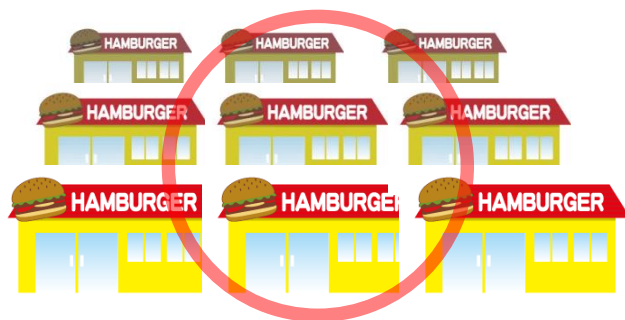
基準項目毎のより詳しい
考え方や証明方法は「**解説書**」に記載





チェーン店で申し込むケース

■チェーン店は、複数店舗を同時に申し込める。



管理部門が主導している**共通のオペレーション**で
基準が達成されているか否かを判断する。

※申込範囲は、申請者に予め設定してもらう
例) 直営店のみ、都内店舗のみ





証明方法

■書類の提出

- ✓ 付属証明書(チェックリスト)の提出
- ✓ 基準を満たすことを証明できる資料、写真、説明文書などの提出



■現地確認

- ✓ 審査時に現地確認を実施する(現地で確認できる項目については書類提出を省略)。





認定後の報告義務等

- 認定後は、継続的かつ計画的に**取り組みを推進し、さらに深化**するように努めること。
(努力義務)



- **食品廃棄物の発生量、エネルギー使用量**、および食品リサイクル法、省エネ法の対象事業者に該当する場合は、**定期報告書の写し**を年1回提出すること。



- 必要に応じて現地確認やヒアリング等を実施する。

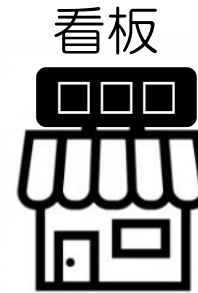


エコマーク表示

- 従来のロゴだけでは、具体的にどのような点で環境に配慮しているのかまでは伝えきれない。



エコマーク
認定店舗



看板

...(店舗名)
(チェーン名)



どのような取り組みを進めているかを
視覚的に表す絵柄(ピクトグラム)を導入



ピクトグラム表示



ECOMARK
CERTIFIED RESTAURANTS
エコマーク認定店舗



食材をえらび、
むだなく運ぶ



フードロスを
減らす



省エネ・節水



エコな備品
設備をつかう



エコな
店舗運営



お客様との
エコ活動

必須を含む**3ポイント**
以上を得た評価カテ
ゴリーのピクトグラムのみ
表示できる。

※画像データは、認定後、PDFまたはイラストレータ形式でお渡しします。



ポスター掲出例



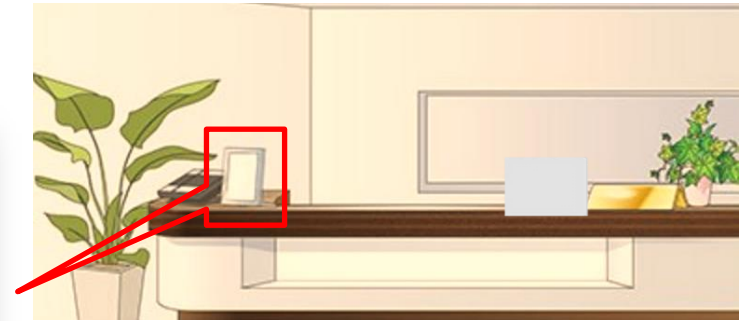
環境によい食材をえらぶ。


ECOMARK
CERTIFIED RESTAURANTS
エコマーク認定店舗

 食材をえらび、 むだなく運ぶ	 エコな備品・ 設備をつかう
 フードロスを 減らす	 エコな 店舗運営
 省エネ・節水	 お客様との エコ活動



認定証の掲示例





メニューで食材配慮を訴求する例

Lunch Menu
11:30~15:00 (12:00~13:00)

4月20日より
自家産野菜
を積極的に
使っています

新登場ランチ
ブレイク (12:00~13:00)
¥1000

新登場ランチ
オムライス (12:00~13:00)
¥1000

当店は環境に配慮した食材を・・・

 エコマーク認定店舗

 食材をえらび、
むだなく運ぶ

〇〇県産の野菜を使用しています。地産地消を推進しています。



ショップカードや名刺に表示する例



・認定を受けた店舗のみ使用できる。

<注意>

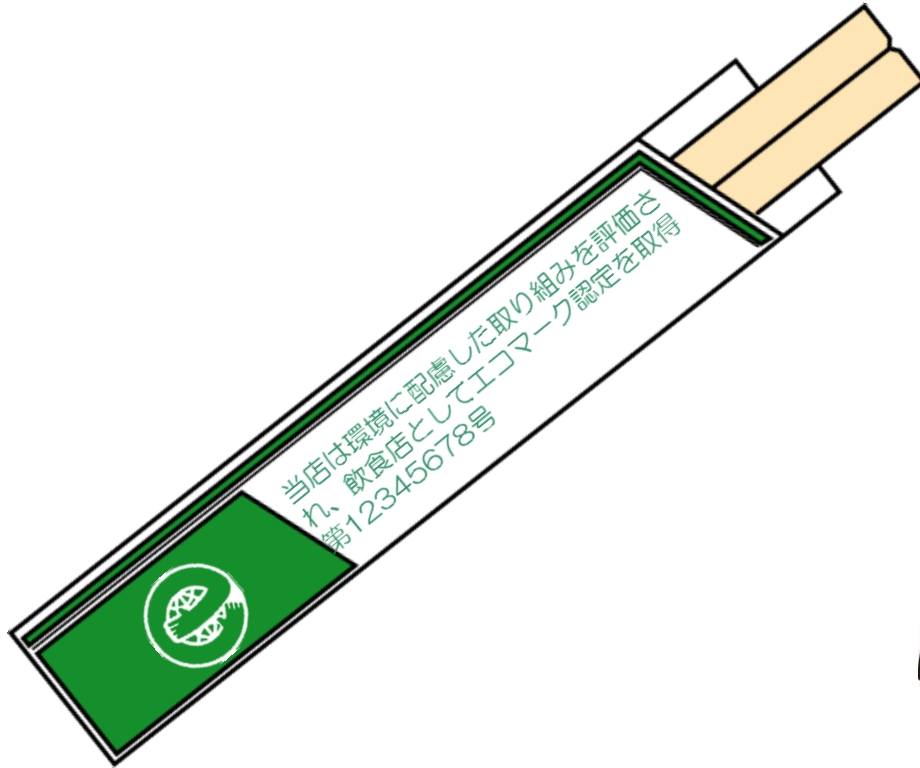
・認定の対象が“**店舗**”であることを明らかにすることで名刺等にも表示可能

・名刺の用紙が認定を受けた、事業者全体が認定を受けた等の**誤認を与えてはならない**。





店舗備品に表示する例



<注意>

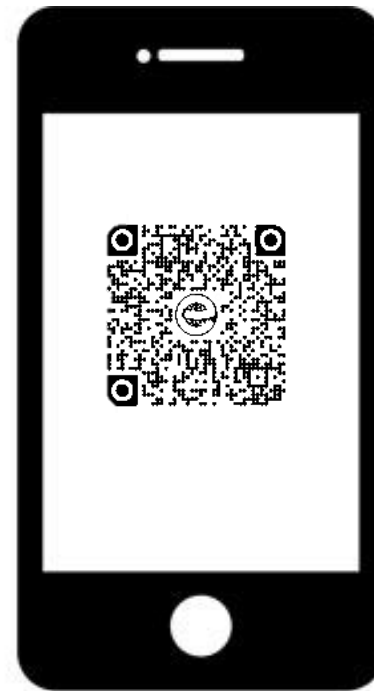
- ・認定の対象が“**店舗**”であることを明らかにすることで備品等にも表示可能
- ・**認定を受けた店舗のみ**使用できる。店舗間で融通する場合は注意が必要。
- ・事業者全体が認定を受けた、その資材(紙、プラスチック)自体が認定を受けた等の**誤認を与えてはならない**。



レシートやスマホアプリなど活用例



エコマーク表示を**コミュニケーション**
の手段としてご活用いただけます。





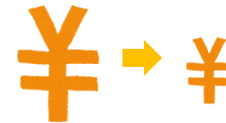
環境報告書での紹介例





エコマーク「飲食店」が目指すストーリー

- 地球温暖化防止に向けた**世界の流れ**を背景に、
- **できるところから**環境保全活動を始め、
- それを継続、向上させることで店舗運営を効率化
- 廃棄物やエネルギーが削減されることで、結果的に**コスト削減**を実現
- 経営者、従業員の意識向上による運営体制の強化
- 同時に、事業活動にもポジティブな影響をもたらす
- エコマーク認定取得により、店舗の**差別化、ブランディング**
- 来店されるお客様に企業の**社会的責任**をアピール
- お客様は**気づきを与え**られ、ライフスタイルを見直し
- 飲食店の場から、社会全体の環境負荷の低減に貢献
- **地球を守る！温暖化防止に貢献する！**

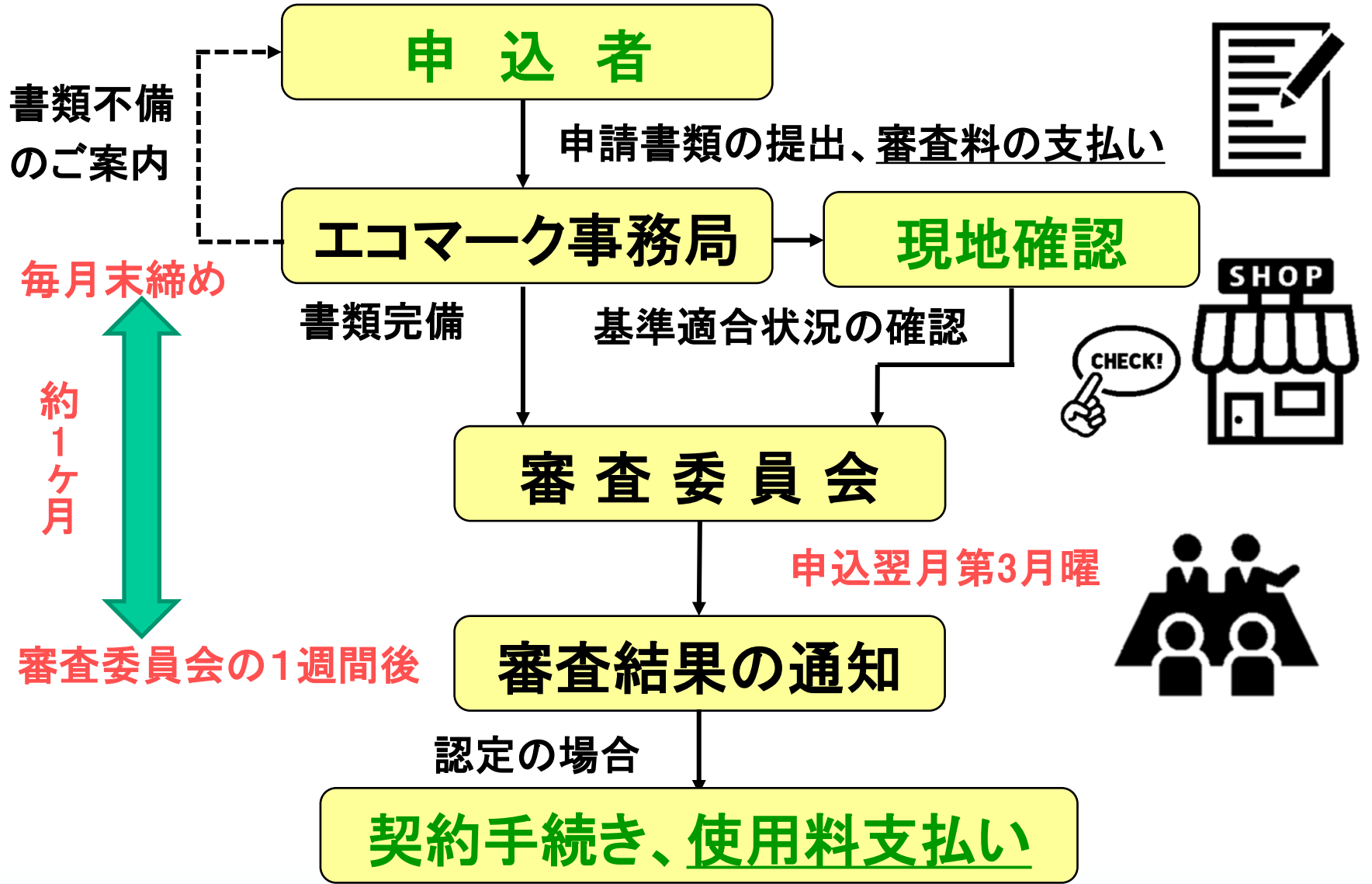


エコマークを一つのきっかけに。



1. エコマークについて
2. 「飲食店」認定基準案の概要
- 3. 申込手続きについて**
4. エコマークのメリットと広報ツール

お申込みから認定までの流れ





取得に係る費用

2017年9月1日改定

1. エコマーク商品認定審査料

申込件数	審査料(税別)
申込1件(1店舗または1チェーン店)あたり	40,000円

注: 平成30年(2018年)3月31日までの認定審査申込分に関する審査料は、一律**20,000円**(税別)とします。

チェーン店で複数店舗を同時に申し込む場合も審査料は一律です。
ただし、チェーンブランド毎になります。

2. エコマーク使用料(年間)

認定施設数	年間使用料(税別)
1施設	30,000円
2~9施設	50,000円
10~100施設	100,000円
101~500施設	200,000円
501~2,000施設	500,000円
2,000施設超	1,000,000円

注: 1事業者あたり(複数ブランドのチェーン店で認定を受けている場合は、施設数を合算してカウントする)。

別ブランドのチェーン店がある場合は施設数を合算できます。(同じ法人に限る)



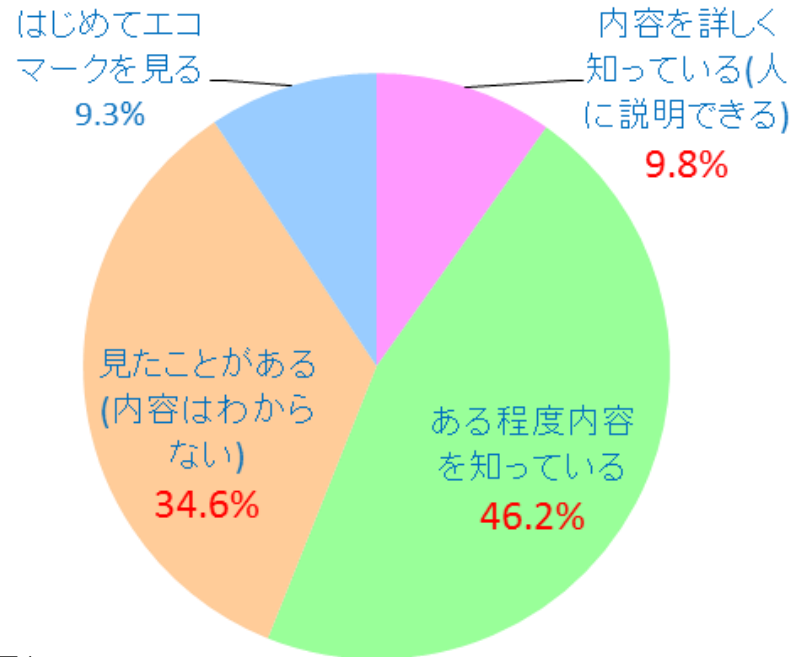
1. エコマークについて
2. 「飲食店」認定基準案の概要
3. 申込手続きについて
4. **エコマークのメリットと広報ツール**



誰でも知っているエコマーク

エコマークの認知度調査(平成27年3月)

- 全体の**約9割**がエコマークを「見たことがある」と回答
- 環境ラベルの中で最も高い水準であり、**老若男女問わず知っている**という強みを広報展開に生かすことができます。



インターネット調査(平成27年3月)
対象者:全国の20歳以上70歳未満の男女5274人



他の環境ラベル等の認知状況(1)

数ある環境ラベルの中で・・・

エコマーク	エコリーフ環境ラベル	カーボンフットプリント認証ラベル	カーボン・オフセット認証ラベル	低排出ガス車認定制度
統一省エネラベル	省エネラベル	国際エネルギースタープログラム	自動車燃費性能評価・公表制度	再生紙利用マーク(Rマーク)
グリーンマーク	FSC森林認証制度	間伐材マーク	SGEC緑の循環認証会議	PEFC森林認証
MSC認証制度	フェアトレードラベル	PETボトル再利用品マーク	牛乳パック再利用マーク	非木材紙マーク

出典：エコマークの認知度調査(平成27年3月)



他の環境ラベル等の認知状況(2)

最も認知度が高い!



エコマーク



低排出ガス車認定制度



グリーンマーク

再生紙利用マーク (Rマーク)

自動車燃費性能評価・公表制度

省エネラベル

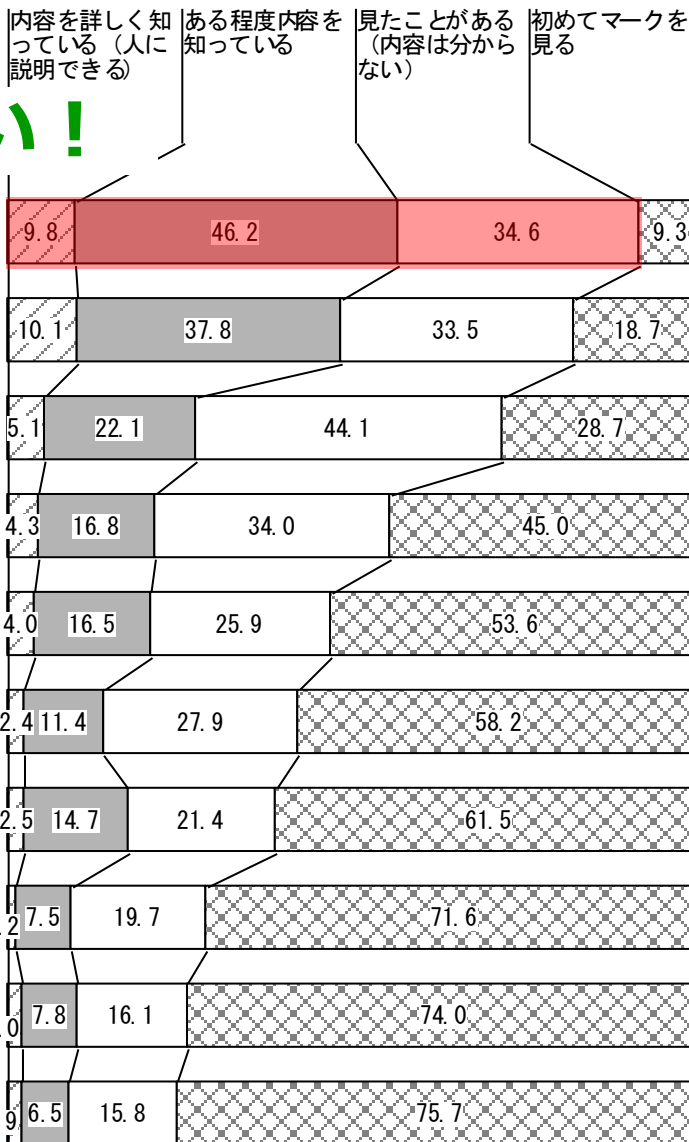
統一省エネラベル

エコリーフ環境ラベル

PETボトル再利用品マーク

国際エネルギースタープログラム

内容を詳しく知っている (人に説明できる) ある程度内容を知っている 見たことがある (内容は分からない) 初めてマークを見る



(%) サンプル数

5,274

5,274

5,274

5,274

5,274

5,274

5,274

5,274

5,274

5,274



90.6%



81.4%



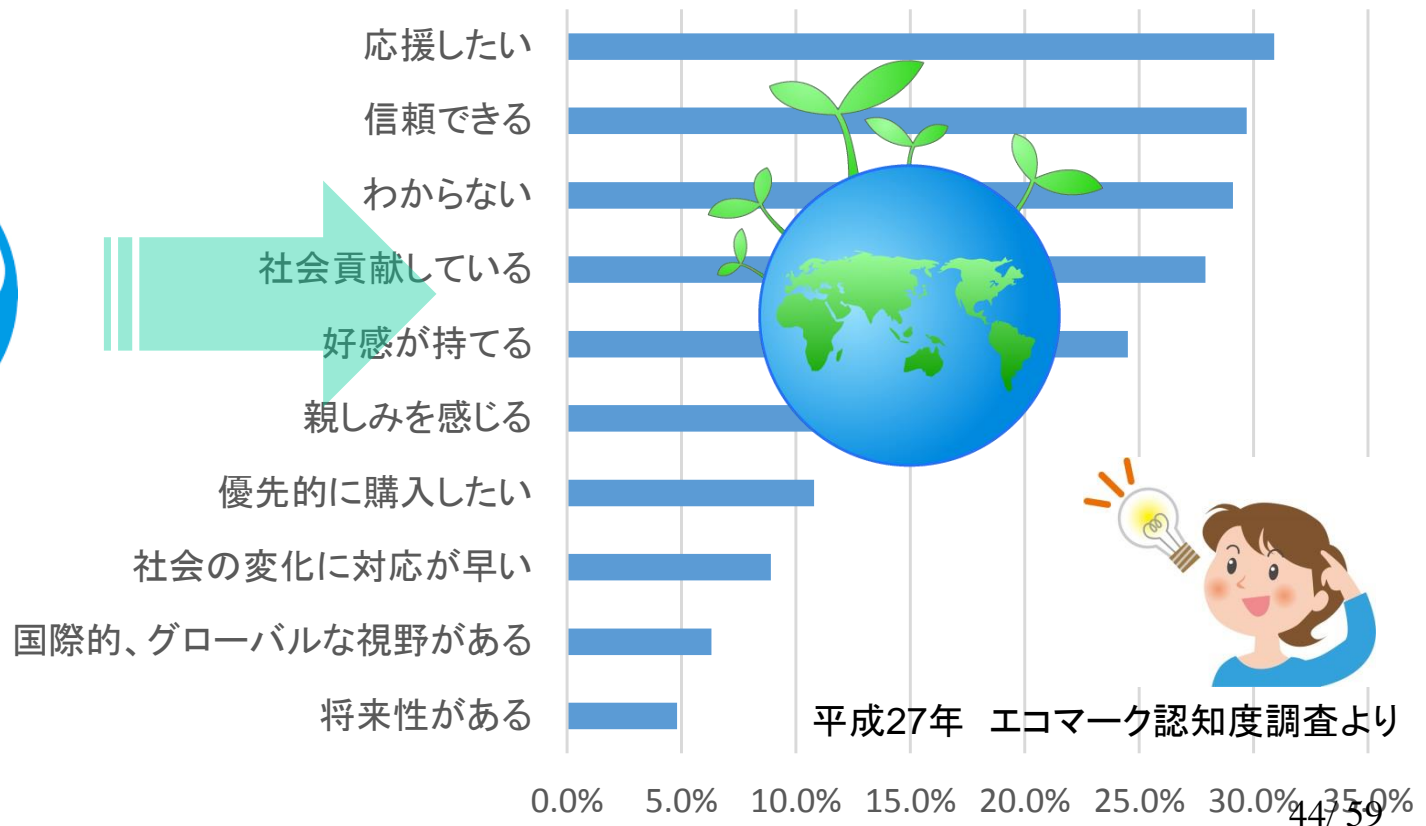
71.3%



エコマークのわかりやすさ

エコマークに取り組む企業＝**良いイメージ**

「環境配慮」という難しいテーマを、「エコマーク」という象徴に変えることで、わかりやすくアピールできます。





企業イメージの向上

「対外的な信用度が向上する」ことが大きなメリット

- エコマークはISO14024に基づく**国内唯一**のタイプ I 環境ラベルです。



International Organization for Standardization

Great things happen when the world agrees



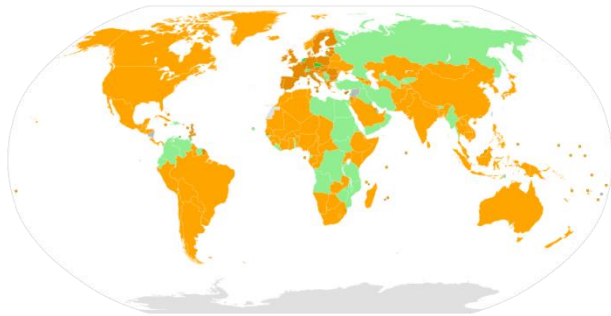
- **第三者認証**のエコマークを使って、環境を重視する企業としてのイメージを広く浸透させることができます。



地球温暖化防止への貢献

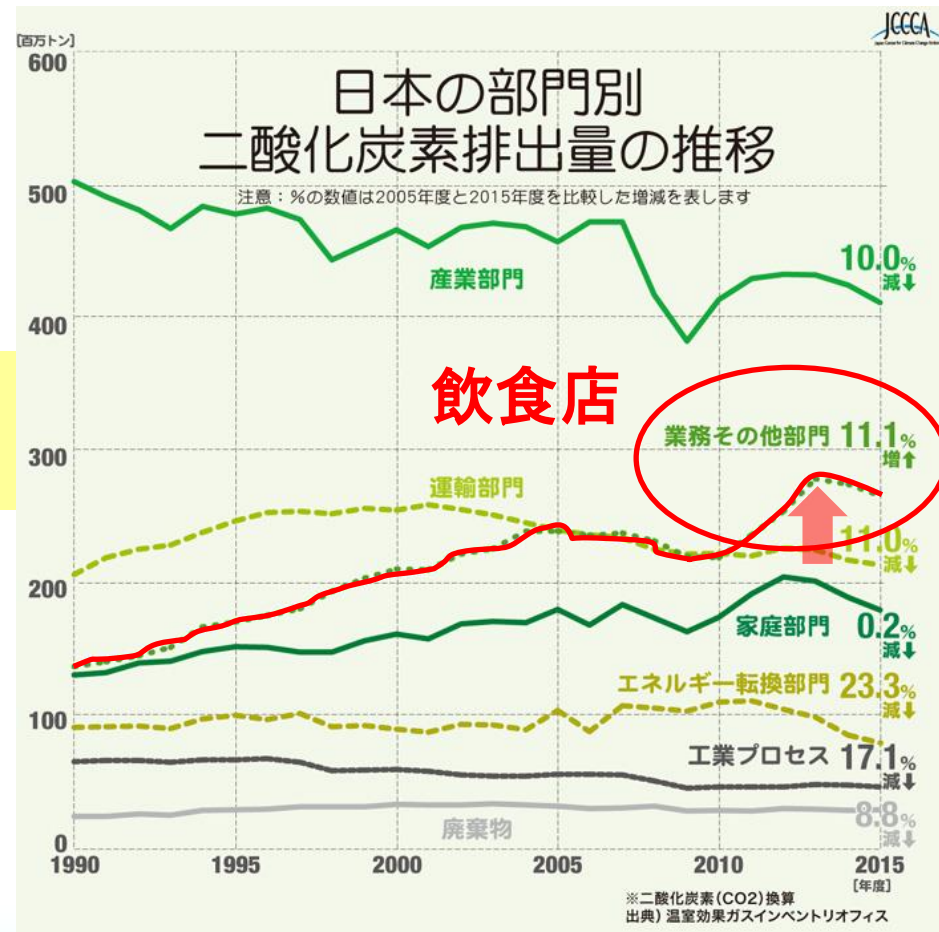
地球温暖化防止に向けた世界の流れ

- **パリ協定** (国際的な気候変動対策の枠組み) 2016年11月発効



日本の2030年目標 26%減 —求められる民生部門の大幅削減—

- **民生(業務・家庭)部門**では、より効果的な削減対策が求められています。
- **飲食店**は、工場等とは異なり施設規模は小さいが、個々の店舗で省エネ意識を高め実践すれば、国内全体で大きな削減効果が見込めます。





継続的取り組みによるコスト削減

- 店舗運営では、知らず知らずのうちに資源やエネルギーの**無駄使い**が行われがちです。
- エコマーク基準が**普段の行動の手引き**となり、それに従って取り組みを継続することで固定経費削減の定着が期待できます。





事務局による広告・宣伝(1)



日本最大級の環境イベント
エコプロへの出展

ビジネス・商談からエコライフ
の提案、環境体験学習まで幅
広いニーズに応える展示会



毎年12月 東京ビックサイト



事務局による広告・宣伝(2)

エコマークの常設展示 “ATCエコマークゾーン”

累計来場者：約300万人 (2000年の開設以降)
(学生や企業、公共団体の見学・研修の場として
活用されています：累計約5,100 団体)



小学生の社会科見学



企業の見学



事務局による広告・宣伝(3)

◆自治体主催イベントへの参加



大館市エコフェア



環境フェスティバルふくおか



なかのエコフェア



まつやま環境フェア

◆環境施設での展示



おおさかATCグリーンエコプラザ



東京都中央区
環境情報センター



東京都足立区リサイクルセンター
あだち再生館



事務局による広告・宣伝(4)

ステークホルダーとのコミュニケーション

▼イベント・アワードの実施

- ・エコマークフォーラム
- ・エコマークアワード



▼自治体との協働

- ・東海三県一市グリーン購入キャンペーン
(1月～2月実施)





エコマークアワードについて(1)

- ◆ **創設** - 2010年(2017年にリニューアル実施)
- ◆ **目的**
 - 環境配慮商品の優れた事例を広く公表
 - エコマーク商品等の普及拡大を通じた持続可能な社会実現
- ◆ **選考方法**
エコマークアワード選考委員会による選考
- ◆ **表彰の種類**
 - 優秀賞(企業部門・公共部門・民間部門)
※最も優れた取組みに最優秀エコマークアワードを授与
 - プロダクト・オブ・ザ・イヤー





エコマークアワードについて(2)

エコマークアワード2016受賞者

株式会社 帝国ホテル



中央化学株式会社



秋田県 大館市



プロダクト・オブ・ザ・イヤー

グリーンプラ株式会社
「グリーンライトバンド」



理想科学工業株式会社
「ORPHIS FW」





エコマークウェブサイトへの掲載



掲載は**無料**です

認定店舗の個別ページ

- ✓ 施設概要、写真の掲載
- ✓ 主な環境取組の紹介
- ✓ 公式サイトへのリンク
...など

<https://www.ecomark.jp/>





ニュースリリースの発信

エコマーク認定商品に関するプレスリリースや新聞・雑誌への掲載情報を、エコマークウェブサイトの**トップページ(新着一覧)**に掲載できます。

NEWS | エコマーク事務局からのお知らせ

▼ 新着一覧 ▼ お知らせ ▼ ニュースリリース ▼ エコマークニュース ▼ イベント・セミナー

- 2017年06月15日 **お知らせ** 「エコマークアワード2017」募集を開始しました (~8/14)
- 2017年06月15日 **エコマークニュース** エコマークニュース 101号を発行しました
- 2017年06月05日 **イベント・セミナー** 5月22日から開催する「エコマーク活用セミナー (資料掲載)」のご案内
- 2017年06月01日 **お知らせ** エコマーク新規商品類型「電力小売(主に低圧の電力プラン)」認定基準の制定にあたっての意見ならびに委員候補者の募集について
- 2017年06月01日 **お知らせ** 認定基準の部分的な改定を行いました
- 2017年06月01日 **ニュースリリース** エコマーク認定基準案についてパブリックコメントを行います (プロジェクト、廃食用油を使用したバイオディーゼル燃料)

新着一覧ページ

- ✓ 認定の取得
- ✓ 新サービス開始
- ✓ 環境新技術の採用
- ...など

- ▶ お問い合わせ
- ▶ 資料請求
- ▶ 認定を取得されている方
- ▶ 海外ラベルとの相互認証

エコマーク事務局
Facebookページ

エコマーク事務局
Twitter

掲載は**無料**です



SNSでの情報発信



エコマーク事務局
Twitter



エコマーク事務局公式Twitter

https://twitter.com/ecomark_staff



エコマークTwitter



エコマーク事務局
Facebookページ



エコマーク事務局Facebookページ

<https://www.facebook.com/ecomark.jp>



エコマークFacebook



世界中のエコマーク(日本)

世界のタイプ I 環境ラベルの運営団体で構成される **世界エコラベリング・ネットワーク(GEN)**に、1994年から発起団体の一つとして、加盟しています。



飲食店(レストラン)基準を有している環境ラベル

複写機、プリンタ等の分野から**相互認証**※を進めています。

※審査を一部省略する仕組み

GEN加盟 30団体・51カ国(2017年2月末現在)



ご清聴ありがとうございました

【お問合せ先】

公益財団法人日本環境協会
エコマーク事務局 基準認証課

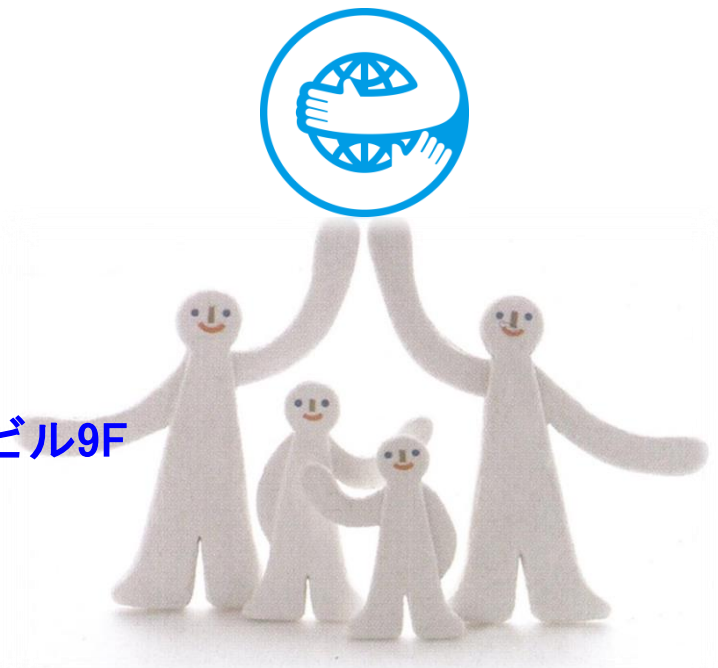
〒103-0002

東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16馬喰町第一ビル9F

Web: <http://www.ecomark.jp>

E-mail: info@ecomark.jp

Phone: 03-5643-6253 Fax: 03-5643-6257



エコマークはグリーンマーケット形成と実現を目指します